たるみ応援ハートブリッジ助成申請のコツ

たるみ応援ハートブリッジ助成では、助成申請後、審査員の依頼を受けて公開審査会(公開プレゼンテーション)当日までに、申請事業などについて問合せする場合があります。

そこで、申請団体の皆さんには、問合せがあった時、そしてプレゼンテーション当日、だれが担当しても円滑に対応ができる“コツ”をご紹介します。

まず、助成事業に申請した内容について、問合せの電話がかかってきたときの対応例を 2 つ挙げてみました。

✕ 悪い例

事務局から申請事業について審査員からの質問のメールが届いた。しかし助成金申請の**担当者が**公開審査会前日まで出張で**不在だったため、回答のメールが返信できなかった**。

○ 良い例

事務局から申請事業について審査員からの質問のメールが届いた。助成金申請の担当者は公開審査会前日まで出張で不在だったが、事前に団体内で申請事業の打合せをしていたので、**他の構成員が代わりとなって、すべての質問等に回答**しメールを返信することができた。

この対応の差は、団体の意思統一や、申請事業について組織内で総意を得られているかがカギになります。そこで、良い例を目指すために必要なコツを 6 つご紹介します。それでは順に見ていきましょう。

1 団体の代表や担当者が、申請書をヒトリで考えない！

申請事業について審査員から深く質問された時、うまく回答するためには、団体内で丁寧に議論しておくことが肝心です。その議論をもとに公開審査会へ参加すれば、だれがプレゼンテーションしても安心です。

2 まずは団体のモクテキと、解決したいカダイをみんなで確認！

団体(組織)の目的や課題をみんなで確認しましょう。それを端的に、できれば一言で表せるようにするのがベスト。申請書の目的や解決したい地域課題など、記入する項目がスラスラとかけるようになります。

3 団体がめざすことと、申請事業のカダイが一致するかを確認

審査員は、団体の目指すことから申請事業の課題設定が説明できていると、申請事業の展開を想定しやすくなります。取組みの効果やその後の展開を団体内で話し合いましょう。

4 申請事業はダレのためか？を端的に答えられるようにしましょう

最終受益者について、具体的に説明できるようにしておきましょう。助成を受け事業を実施すると、どんな人に恩恵があるのかが明解になると、審査員は事業をイメージしやすくなります。

5 自分たちの活動をカンタンな言葉で、短くまとめるとおトクです

審査員には、助成金の財源、赤い羽根共同募金を集める代表の高校生がいます。その他の審査員も含め、申請事業に詳しいとは限りません。そこで、解決したい社会的背景や歴史、現状について、簡単に把握できる説明文を考えてみましょう。そして説明文はできる限り専門用語を使わず、短く仕上げてみましょう。この説明文は一つ完成しておけば、他の助成金申請や団体活動の事を知ってもらいたい様々場面で使えるため、おトクです。

6 全てにおいて、団体（組織）の中でゴウイを得ておきましょう

申請する事業の内容はもちろん、申請書を考える過程で改めて共有されたことは、団体の意思決定機関(NPO 団体の場合は理事会、総会等)に諮り、必ず団体の総意を得るようにしておきましょう。

! サイゴに、、、

この 6 つのコツを踏まえておくと、団体の代表者や助成金申請の担当者が不在の場合でも、他の構成員が代理になって、後の手続きをスムーズに進めることが可能になります。本助成事業だけでなく、他の助成金への申請や、団体の広報にも有効活用できますので、ぜひチャレンジしてみてください。

たるみ応援ハートブリッジ助成　事務局
垂水区社会福祉協議会

引用・参考サイト

NPO 法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会、2014、Change Recipe